

産業標準案作成対象テーマの審議について

日本産業規格（JIS）の制定、改正又は廃止のための産業標準案（以下、JIS 案という。）の作成に着手するに当たっては、当会認定産業標準作成機関 JIS 案作成規程に基づき、当該 JIS 案作成対象テーマが適切であることについて、主務大臣による事前調査、及び JSA 事務局による“JIS 案の作成開始要件”を満たすことの事前確認を経て、産業標準作成委員会にお諮りすることとなっております。

つきましては、次ページ以降の JIS 案作成対象テーマについて、理由（必要性）及び期待効果、JIS 案の作成開始要件への適合状況、作成開始予定などを記載しておりますので、JIS 案の作成に着手してよろしいかご審議をお願いいたします。また、産業標準作成委員会の下に JIS 素案の調査審議及び作成を行うための WG を設置することについても併せてご審議をお願いいたします。

なお、字句等編集上の修正については、産業標準作成委員会事務局に一任いただきますようお願いいたします。また、ご承認いただいた JIS 案作成対象テーマは、利害関係者に公表するために JIS 作成予定一覧表として JSA ウェブサイト掲載いたします。

※選定基準 3（産業標準化の利点・欠点）各コードの内容につきましては、
下記リンク先の 5～6 ページにてご確認いただけます。

「産業標準案等審議・審査ガイドライン」

URL <https://www.jisc.go.jp/jis-act/pdf/shingishinsa-guideline.pdf>

産業標準案作成対象テーマ一覧(改正)

認定機関	産業標準作成委員会	制定/改正/廃止	規格番号	JIS案の名称	JIS案の英文名称	改正する理由(必要性)	期待効果	規定項目又は改正点	制定・改正に伴う廃止JIS	対応する国際規格番号及び名称	対応する国際規格との対応の程度	測定基準1 (JIS法第2条の産業標準化の対象)	測定基準2 (JIS法第1条の法律の目的)	測定基準3 (産業標準化の利点・欠点)	測定基準4 (国が主体的に取り組む分野の判断基準)	測定基準5 (市場適合性に関する判断基準)	JIS素案作成委員会(WG)	作成開始予定
JSA	09 化学	改正	K6217-6	ゴム用カーボンブラック—基本特性—第6部:ディスク遠心光沈降法による凝集体分布の求め方	Carbon black for rubber industry—Fundamental characteristics—Part 6: Determination of aggregate size distribution by disc centrifuge photosedimentometry	この規格は、ゴム用配合剤として用いるカーボンブラックの基本特性のうち、ディスク遠心光沈降法による凝集体分布の求め方について規定しているもので、2019年にISO 15825:2017を基礎として改正された。ISO 15825は現在、新たに濃度勾配を利用した遠心沈降法(CPS法)を追加し改訂中であり、2025年のDIS投票で反対及び技術的な意見がなかったことで、近々ISO規格として承認される見込みである。これにより従来のディスク遠心光沈降法(DCP法)に加えCPS法が規定として使用できることとなる。 ディスク遠心光沈降法(DCP法)は、ストークスの法則に則った方法であり、濃度勾配を利用した遠心沈降法(CPS法)はこれを改良した方法である。CPS法は大きさの既知の粒子と比較しながら粒子径分布を求めるもので再現精度が良い利点がある。 この規格を改訂された対応国際規格と整合することで、CPS法が規定として使用できるようになると、国内市場において製品の品質評価の精度向上が見込まれ、より詳細な品質差の確認を可能とし、顧客との品質差異に関する情報共有化が容易になることから、整合を図る必要がある。 このような状況から、対応国際規格との整合及び近年の技術の実態に即した内容とすべくJISを改正する必要がある。	この規格を対応国際規格と整合させることにより、このCPS法が規定として使用できるようになると、カーボンブラックの粒子径分布の測定精度が向上することで、国内外の製品の品質評価の精度向上が図れ、より詳細な品質差を確認できるほか、顧客との品質差異に関する情報共有化がし易くなるため、品質に優れる国内企業の製品の優位性が明確となり、取引の円滑化も期待される。	主な改正点は、次のとおり。 ・対応国際規格に合わせて、新たに濃度勾配を利用した遠心沈降法(CPS法)を追加する。これに伴いディスク遠心光沈降法(DCP法)をA法、濃度勾配を利用した遠心沈降法(CPS法)はB法と規定する。 ・適用範囲において、CPS法を追加する。	—	ISO/DIS 15825:2025 Rubber compounding ingredients—Carbon black—Determination of aggregate size distribution by disc centrifuge photosedimentometry	MOD	第2条の該当号: 4(試験方法) 対象事項: ゴム用カーボンブラック	法律の目的に適合している。	利点: イ、オ、キ 欠点: いずれも該当しない。	—	ISOで制定された国際標準をJIS化するもの	一般社団法人日本ゴム工業会のWG	2026年4月
JSA	09 化学	改正	K7142	プラスチック—屈折率の求め方	Plastics – Determination of refractive index	この規格は、プラスチック成形品、キャストシート、フィルムの屈折率の測定方法に関する規格である。屈折率は、素材の互換性や品質保証面で重要な物理量であり、プラスチックの屈折率は、材料の純度や同定、光学部品の設計において重要となる光学特性の一つでもある。プラスチック素材やシート、フィルム等の素材を海外へ販促する際に、光学特性の違い等による混乱が生じないようにするために、対応国際規格との整合性が重要となっている。1999年に制定されたISO 4891は、2014年に制定されたJIS K7142と一致し整合が保たれていた。しかし、2022年のISOの改訂において、試験片のサイズ規定の変更、温度調整装置に関する変更、精度における再現性についての記載変更などの改訂が行われた。材料および製品の国際的な取引の円滑化の観点から、国際規格との整合を保持するため、この規格を改正する必要がある。	国際規格に合わせた改正を行うことにより、この規格の整合性が維持され、材料特性が国際基準に準拠することとなる。これによりユーザーや関係者間に混乱が生じることなく、国際的な取引の円滑化が期待できる。また国内、海外とで性能の認識を共有できるようになる。	主な改正点は、次のとおり。 ・装置及び試薬において、A法の温度調節装置の温度維持に関する記述を変更する。 ・試験片サイズの記述を変更する。 ・精度において、本文を附属書Aに移行し、再現性について記載を変更する。 ・試験報告書において、B法で使用される浸漬液の種類を追加する。	—	ISO 489:2022 Plastics – Determination of refractive index	MOD	第2条の該当号: 4(試験方法) 対象事項: プラスチック	法律の目的に適合している。	利点: ア、ウ、エ、オ、キ 欠点: いずれも該当しない。	—	国際標準をJIS化するもの	日本プラスチック工業連盟のWG	2026年4月